

ふるさと 資料紹介

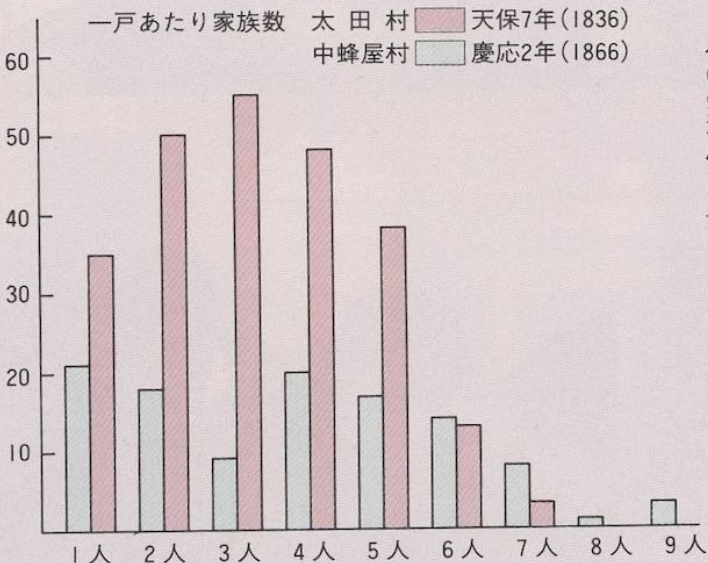
= (43) =

こもんじょ
古文書にみる
近世庶民のくらし⑪

江戸時代も核家族

もうすぐ明治というころの家族の人数を調べてみました。比較的人数の多かった太田と中蜂屋をみてみましょう。

両村とも半分ほどの数しか拾えませんでした。このころの様子が大体分かります。左のグラフによると、三・四人の家族が多かったことにな



ります。グラフには載っていませんが、為岡や山本では四人・五人くらいでした。少人数で、今日言われている「核家族」も結構多く、蜂屋村では一〇一戸中六八戸が、夫婦と子供、または母子家庭だったようです。

八人、あるいは九人家族の家も調べてみました。三世代家族もありましたが、弟夫婦と子供が同居していたり、成人になった戸主の弟姉妹がいたりしました。前者は、許可を得て別家に住んでいても、一軒の家として認められていなかったのです。

中には子供が七人という家もあり、一番年下の子は「留吉」と言う名前でした。

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈していただき、ありがとうございました。

(平成六年十一月分)

○鍛冶用フィゴなど四点
(渡辺春夫さん/森山町)

博物館建設のため各種の資料を収集しています。社会教育課文化係(☎内362)まで情報をお寄せください。

ふるさとの宝のみっけ!